

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370201547		
法人名	社会福祉法人 郁青会		
事業所名	グループホーム みつばちハウス		
所在地	岡山県倉敷市中帯江114-7		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 31 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事への参加、近所の理解を得た地域の一員として生活できています。利用者ご家族や親戚の方々が、訪問しやすい雰囲気作りや、コミュニケーションに努めています。年に2回はユニット合同で、利用者、職員で敬老祝賀会、忘年会を開催し、交流・親睦を深めています。管理者・職員は、定期的にあらゆることを話し合い、認知症、介護についての勉強会を持ち、ケアの向上に努めています。利用者の関わりに重点を置き、利用者職員が共に暮らす我が家を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた静かな中、職員の優しい声かけから一日の始まりが感じとれる。管理者の信条、「利用者が一番であること」その人に合った徹底した「個の支援」が職員に浸透している。働きやすい職場として「現場に近い人」と評される所以である。お茶の飲めない人への水分補給の工夫や主食・副食が摂取出来ない利用者への試行錯誤を重ねて口へ(炊きたての上澄みのご飯・高カロリージュース提供)と運ばれ生命・栄養維持に繋がった。毎日少しずつ変化を見ながらたどり着いた成果である。事業所理念の「寄り添う介護」実践をしている。管理者が利用者一人一人の写真をフォルダーにまとめて退所の時に家族へ渡している。利用者家族との絆をたいせつに共に支援している様子が窺えた。

dekunaruvousvabeno

sikousakugonosuen		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい職員も数名加わり、新旧職員で理念の中のご利用者・ご家族・地域の方々との関わり方など、もう一度再認識している	理念は事務所に掲示し新旧職員で確認している。地域の関係性を大切に日々のサービス提供の場面の振り返りを実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今現在、コロナの影響で集まることは出来ないが、季節の挨拶、定期的に手紙を出して、お互いの近況報告をしている。またコロナの事で何かあれば情報発信している	昨年の秋祭りは窓越で、今年は外へ出て人気の鬼面の子も御輿と一緒に写真を撮ってもらっている。面会に来られない家族や他事業所に広報誌「さんさん」の発送をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進者会議での現状報告や病院受診や買い物などの場での関わりから、地域に受け入れてもらえるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の推進者会議でホームの現状や、利用者の方々の体調、精神面の変化、事業所の体制等を話し合い、理解して頂いている。地域の民生委員、老人会、他のグループホーム管理者に参加して頂き、多方面からの意見を得ている	コロナ禍の収束に伴い7月より運営推進委員会が再開された。地域包括より認知症の増加に伴いサポート養成講座を考えていると意見があがった。管理者が地域の防災訓練に参加した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月の推進者会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂き、ホームでの介護の現状などを細かく報告している。また、介護についてのアドバイスを受たり、介護保険制度についてなど情報を伝えてもらっている	市の担当者に以前コロナ給付金の件で相談にのってもらった。家族と連絡が取れない為後見人制度利用に至った。利用者の30%が生活保護受給者なので、担当者と連携を図り相談しやすい関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今のところ身体拘束をしなければならないケアはなく、もし今後必要な事があれば、職員全員身体拘束に関する研修を受け、意識を持ってケアに取り組んでもらう。	虐待委員会は月1回のカンファレンス時に開催している。拘束に関する施設内外研修を行って身体拘束をしないケアを意識しながら介護支援している。「ちょっとまって」(言語による拘束)にも対応しよう心掛けている。ヒヤリハット、転倒などによる事故事例もあるが、身体拘束をしないケアに対する職員の労苦も窺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する施設内研修を行ない、意識をもってケアに取り組んでいる。身体的な虐待以外にも言葉や態度、介護拒否が虐待に含まれることを職員に伝えて防止に努めている。利用者の表情や身体的異常の発見に気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度についての知識を持てるよう、職員研修などに取り入れたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書の内容を細かく説明し、同意を得ています。また、不安な点や質問を受ける時間を設け、十分に説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今のところ問題は起きていないが、ご利用者・ご家族に信頼してもらえる様、早期対応に心掛けるようにしている	感染症の急増のため面会は窓越しで継続している。家族も理解してくれているが、やはり表情だけでなく身体に触れたいと思っている。今後は時間枠を決めてホーム内での面会を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやミーティング以外でも職員からの声を聞けるようにしている。何かあれば代表者へ伝え、職員全員で問題解決に努めている	職員から口体操時の文字が利用者に分かり易く伝わるよう(視覚からの刺激を使って)レクリエーション用のホワイトボードの提案が出る。本社に購入を交渉している。職員間の関係性もよく風通しもよく良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回個々の自己評価と同時に、上司が努力した点や勤務状況を評価し、給与・賞与に反映している。また自己評価、自己目標の記入から、やりがいのある職場環境条件の整備作りに役立てている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護力に合わせた研修への参加と、日々の介護の場面での指導等で認知症への理解を深めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者等連絡協議会の開催する研修の参加や運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加して頂き、色々な場面での対応の仕方などのアドバイスを頂く。他のグループホームの管理者の意見交換も行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のフェイスシートや家族・本人の要望などの情報を職員全員が把握し、関われるようにしている。他のご利用者と良い関係が持てるようにサポートを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームの見学をしてもらい、ホームでの雰囲気、環境を見てもらい、安心して生活できるかどうか見てもらう。ご利用者・ご家族の要望、不安な点を聞き、しっかりと説明し、ご理解して頂くよう努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者が情報を集め、必要としているサービスを本人・ご家族からの要望などを聞き、ケアプランに反映させられるように努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と一緒に食事をしたり、お茶を飲んだり、談話をしたりして、関係性を築いている。また、お盆拭き、洗濯干し、洗濯たたみもして頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見、敬老祝賀会、忘年会等にもご家族の方にも参加して頂き、ご利用者様と一緒に過ごせる時間を作る。また、ご家族から色々話を聞いたりして、共に支えていく良い関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、訪問される方は少なかったが、徐々に増えつつある。以前と変わらない対応をしている	以前は家族が居室に入り衣替えをしてくれた。コロナ禍で家族との面会もままならず、利用者の変化がうまく伝わらなくて、職員ももどかしさを感じていた。職員の運転で花見をしたり、近所の散歩に誘っている。病院への通院は普段の様子がよく分かる為職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格、相性などを考えて、他のご利用者とはトラブルにならない様に席などを配慮する。ご利用者が一人でいる時は必ず職員が声掛けや同席させて頂くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族へ手紙を出したり、電話をしたりしている。退院後の居場所についてご提案させてもらったり、特養などの希望があれば相談を受けたり、支援を行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事、出かけたい場所など、本人の思いを聞き入れ実行できるよう努めている。コミュニケーションの取れにくいご利用者については、生活歴や家族からの情報にて推察している	散歩したいという意思表示を汲み取り、一緒に出かけている。利用者の能力によって仕事(ゴミ捨てなど)を頼むと生き生きとした表情で動いてくれている。個々に見合った役割は状況を見ながらしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や本人の性格、既往歴など、本人の今の姿に至るまでについて、ご家族や入居前のケア関係者からの情報提供を基に、フェイスシートに落とし、関わる職員が事前に把握し介護にあたっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣や趣味、生活歴、既往歴、性格などをご家族より聞き、現状の姿をプランに写し介護に努めている。出来る事、出来ないこと、したいこと、したくないこと等、本人の意思に重点を置き、生活を支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を基に毎月カンファレンスを行ない、職員が気づいた点やアイデアを話し合い、計画に反映させている。特別な変化については記録に残している。主治医に相談し、関わり方、介護計画を変えることもある	月1回のカンファレンスに意見が出るとその都度検討している。夜間頻回にトイレコールがある方の対応について、ポータブルトイレとセンサーを検討し設置した。トイレ回数が減り、他の利用者にも落ち着きが戻った。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画を反映させて職員が情報を共有し、日々確認・実行出来るようにしている。個別記録から認知症状の変化の時期や内容を把握し、介護計画の見直し検討に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のご家族が仕事、病気などで来所が困難な場合、ご家族に代わって病院受診や入退院の援助を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会・地元幼稚園・小学校との交流、幼稚園の行事への参加。地域の方と会話をしたり、お花を頂いたり、馴染みの関係が築けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、対応内容を細かく説明し、本人及び家族の意向でかかりつけ医を決めている。月2回の往診と訪問看護で、適切な医療の提供と健康管理を受けられるよう、日々の様子について情報提供を行ない、信頼関係を築いている	往診医と訪問看護に適切な医療の提供・健康管理を受けられるように、日々の様子について情報提供している。普段から痰の多い人で朝夕のバイタル、酸素飽和濃度を何度もはかり経過観察していた。様子に変化があった際に、かかりつけ医へ連絡し救急搬送(肺炎併発)した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の訪問もあり、日頃の健康管理が充実している。介護職と看護師が情報を共有し、入居者の健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院はまず、病院関係者に情報提供を行なう。治療の状況や退院時期、退院後など医師や病院関係者と話し合いを持つなどして、早期退院を目指している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針、看取りの同意書の説明を行ない、理解を得ている。重度化した場合その都度、ご家族・主治医・職員と話し合いを重ね、事業所の出来る事、出来ないこと、体制、ご家族の協力などを話している	現在、利用者の平均介護度は2.3で看取りは最近なかった。以前、チームの協力のもと1階の角部屋へ移動し、居室対応を行い、家族と連携し看取りを行った。重度化、病状の悪化に伴う説明はその都度している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練は年1回法人全体で行ない、職員全員が参加している。ご利用者の急変、事故発生の際は、バイタルチェック、骨折など身体変化、異常を見極め、管理者、主治医に連絡などの手順、適切な処置、搬送が出来るように指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定して行なっている。施設連絡網以外に地域連絡網も作り、緊急時の協力体制の強化に努めている。訓練は推進会議時に行ない、メンバーにも避難訓練、消火訓練に参加してもらっている	3メートルの水害を想定し1階の利用者は階段から屋上まで上がる訓練や、管理者が地域の避難訓練に参加し、避難先までの経路の確認を行った。非常食を使った炊き出しに参加し、備蓄の必要性を感じた。実際経路を歩き利用者には難しく地域の協力を実感した	消防の担当者より3年以内に地震が起こると情報をもらっている。地震想定での避難訓練と備蓄の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の守秘義務について、職員全員が意識して関わっている。人権、プライバシー保護、個人情報についての研修を行ない、意識付けを行なっている	人権、プライバシー保護、個人情報について研修を行っている。カンファレンス時に意識付けをしている。施設内研修にモバイルアプリケーションを利用し、毎月動画による課題項目に取りくんでいる。職員の努力と学びの姿勢が利用者支援に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスを提供する時、手伝い、行事への参加、外出、散歩…。本人が意思決定出来るように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で過ごす人、ホールで過ごす人、テレビを見る人と、出来る限り本人が希望する過ごし方を優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常及び外出の日の服装など、本人の好みに合わせ、本人の決定に合わせるようにしている。髪型は本人の希望や個性に合わせたカットにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在は食事形態が違う為、イベントやお誕生日会などで、ご利用者が食べたい物をお聞きし作っている。声掛けし、お手伝いをして頂く。玉ねぎやジャガイモの皮むきをして頂く	食事は食材を業者に依頼している。行事食、誕生日食は利用者と一緒に作っている。嚥下力を考慮した月見だんごは、豆腐を練り込んだり工夫し、誕生食はちらし寿司と一緒に作り時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や病歴などを考えた食事、野菜を多く使った食事作り、糖尿病の方へは糖분을調節した食事、水分制限のある方へは、摂取の管理などに努めている。また嚥下状態に合わせた食事形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実行。自力で出来ない人、磨き残しがある人の介助や、衛生管理に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に向けて早めのトイレ声掛け、誘導を行なっている。意思表示の出来にくい利用者について、職員は排泄パターンを把握しており、表情の変化を捉えトイレでの排泄が出来るようにしている	常日頃から排泄パターンを把握しているので声かけをして促している。特に便の場合、利用者の気持ちを尊重し、自立している方は事後報告をしてもらっている。介護抵抗のある方へは2人で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、起床時の牛乳。野菜や根菜類の多い食事を心がけて作っている。散歩やフロア歩行も行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体の入浴日を決めているが、その日入りたくなければ翌日にするなり、無理強いはしない。利用者一人一人のペースに合わせてゆっくり入浴をしている	週3回入浴をしている。拒否する方については気分転換をしながら時間をずらして声かけをしながら誘導している。シャワー浴をされる方へは1人一人の温度調整をしている。意思疎通の困難な方にはうなづきや表情から読み取る努力を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室に出入りし、一人一人の生活パターンで食後時間短時間横になる人、夕食後早々に自室に戻る人、横になりテレビを観る人、遅くまでリビングでテレビを見て過ごす人など、睡眠に入る時間帯も様々である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を見やすいところに置き、職員がいつでも確認できるようにしている。朝、昼、夕、眠前と分けし、確実な服薬に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付け、洗濯たみ、お盆拭き…。出来る事をしていただき、散歩、ドライブなどの気分転換を行なう		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの影響で出来ていないが、ホームの近くを散歩したり、屋上での日光浴などを行っている	コロナ禍では屋上での日光浴をしていた。最近では近所の散歩等外出の機会が増えている。「花屋敷」と呼ばれる近所に行きお花を頂いて帰ることがある。五感の刺激を受け、季節の花を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は現在いない為、行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所からいつでも電話でご家族や親戚と連絡が取れるようになっている。家族への年賀状は毎年手書きで出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング、いつでも出入りできる台所、フロアに6か所のトイレがあり、ゆったりと過ごせるようになっている。もちろんリビング、居室、浴室は冷暖房完備である。広い窓から屋外の天気や様子などが伺える	フロアには季節感あふれる飾り付けや作品が置かれており、落ち着いたある雰囲気の中で時間の流れを感じることが出来る。違和感なく手作りの杖ホルダーが椅子に取り付けてあった。また椅子の背に安全のため座布団を付けて座位保持を保つ工夫もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の所定の場所の他に、リビングの壁側にソファやテレビの前に椅子を多く置き、自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物や、好みの物を置いている。仏壇を持ち込んでいる方もある	めくれるフォトアルバムや子どもの写真等、心に残るものを傍らにおいている入居者おり、居心地の良い居室づくりが見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入口には表札を出し、自室の確認が出来るようにしている。トイレ、浴室、廊下には、手すりを付け、安全に移動が出来るようにしている。居室は一人一人に合わせたベットを使用し、呼び出しコールも設置している		